

# 教育システム

## 〔1〕LT<sup>2</sup>教育システム

LT<sup>2</sup>教育システムは、「実学教育」を建学の理念にかかげる本校が、卒業後の教育で本当に役立つ人材養成のために見つけた「学習動機付け」と「自立学習」にポイントを置いた本校独自の教育の方法論です。

「馬を水のみ場まで無理矢理ひっぱっていくことはできても、馬がその気にならなければ、水を飲ませることはできない」という古い諺があります。人をやる気にさせることの難しさと大切さをいう喩えです。

学校で学ぶのも同様です。学生が「やる気」になることが、学習効果を高める秘訣です。そのためには「学習動機付け」が重要です。一人ひとりの学生が意欲的に将来のため「何を学び何を身につけたいのか」という目的意識を持つことが学習効果を飛躍的に高めるのです。

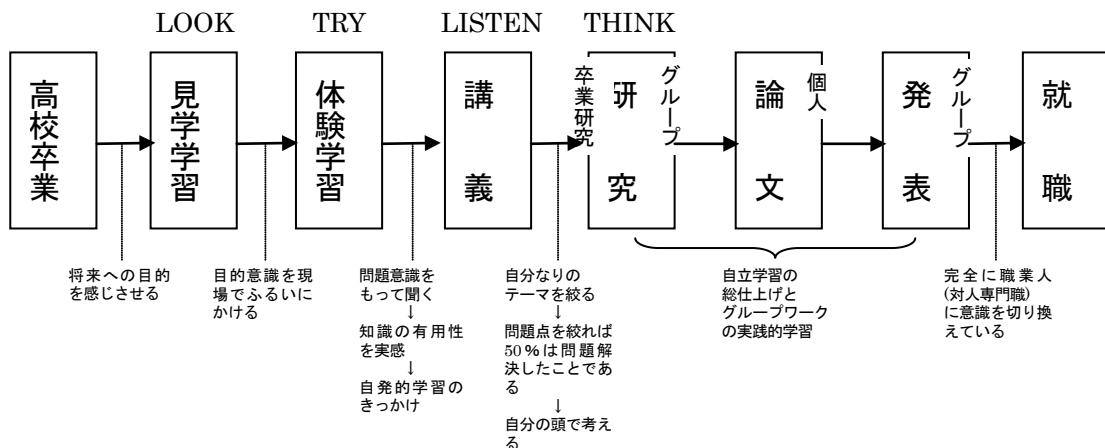
そして「教わる」という受け身の考え方では、「教わっていない」現実と直面したときの「工夫」が生まれません。自分から「学びとる」という積極的で前向きな考え方が、現実のいろいろな問題に対処して、自分なりの解決策を生み出すことができるのです。本当に仕事の現場で役に立つ人間というのは、自分で考え、自分で工夫し、実践できる人間なのです。私たちは、「自立学習」の大切さを決して忘れてはいけません。

自分で課題を見つけ→その解決策を考え→他人と討議し→解決策を決め、実行し→最後にその結果を反省する。そこまでできる力を養うのが、私たちの考える「自立学習」です。

「学習動機付け」と「自立学習」をどのように実現するのか？「体験学習」にポイントを置いた教育システムで、というのが私たちの見つけた答えです。まず、現場を見、体験することで、「知識」や「技能」は、言葉で知っているだけでなく、身体の手で記憶するものになります。決して忘れません。その上で、聴き、考えますから、問題にぶつかった時に、自分の頭で考え、実行する力をつけられます。

私たちのLT<sup>2</sup>教育システムは、しっかり目的意識をもって自分で考え、工夫のできる真の職業人(プロ)を生み出すための最短最強のコースであると信じています。

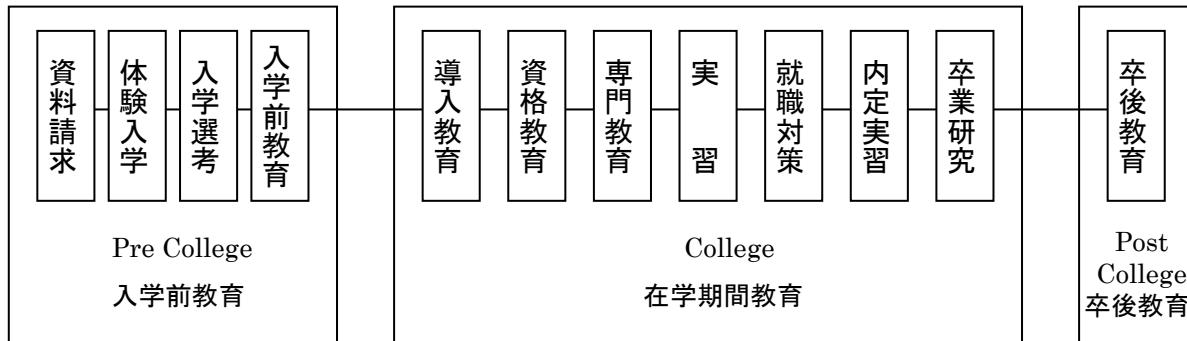
LT<sup>2</sup>教育システムをフローチャート化すると、下表のようになります。



LT<sup>2</sup>教育システムは、完成したシステムというより、常に学生たちとともに成長していく柔軟で生き生きとした教育方法です。生き生きして、フレッシュで、前向きで、明るい(福祉・医療・保健)人を生み出すために、先生たちが学生とともに工夫し、作り上げていくシステムなのです。

## 〔2〕PCP教育システム

専門職業人になるための学習は一生続きます。そして、専門学校での教育は入学に始まり、卒業後も続いていきます。そのような考えからこの一貫教育システムは作られています。



(自己発見)  
職業(将来・夢)の発見を支援する。

(自己変革)  
職業人に向けて、自己を変えていくよう導きまた援助する。

(自己実現)  
職業人として完成していくよう、さらなる能力の向上を支援する。

## 〔3〕本校のカリキュラム体系について

本校のカリキュラムは、自立したプロの職業人として業界で活躍するために必要な能力である「モチベーション(動機づけ)」「ミッション(使命感)」「プロフェッショナル(職業的な智慧)」という3つの能力を修得する教育プログラムで構成されています。

### 1. モチベーション(動機づけ) プログラム

「適性を見つけ、目的意識を育てるプログラム」

自分の適性を把握し、「目的意識」をもって学習に取り組む姿勢を身につけ、学習に対する強いモチベーション(動機づけ)を維持できるようにします。

さらに、「教わる」という受け身の考え方ではなく、自分から「学びとる」という姿勢や、仲間との討議やグループワークを通じて問題解決するといった「自立学習」の習慣を身につけ、学習効果を高めるプログラムです。

#### モチベーションプログラムを構成する3つの教育

##### ●『入学前教育』

合格からオリエンテーションまで継続的におこなう教育です。学生同士がお互いに支えあう相互支援的集団作りと目的意識の向上により、これからの学生生活への不安を解消します。

##### ●『導入教育』

入学生オリエンテーションから夏休み終了くらいまでおこなう教育です。将来の職業像を確認し、学習の目的をとらえなおして、目的意識の固定を図ります。また、グループ活動を通じて、クラスの相互支援的環境を作ります。

##### ●『プロ意識教育』

第1クォーターから卒業までおこなう教育です。プロと接触(見学、対話、講演)し、プロについての知識を広げ、あこがれるプロや、自分のなりたいプロの具体的なイメージを持ち、学生である今もプロの職業人の一員であるという意識を持ちます。

## 2. ミッション（使命感） プログラム

「そのプロに必要な態度、思考、倫理とそれらの基本となる知識を身につけるプログラム」  
「モチベーション（動機づけ）」と「プロフェッショナル（専門的な智慧）」をあわせ持っていたとしても、専門職の「使命感」を持っていなければ本当のプロとはいえません。このプログラムでは専門職としての「使命感」を育てるために、プロの職業人に必要な態度、考え方、倫理観、そしてそれらの基本となる知識を学びます。それぞれの専門職をとりまく疑問や課題について、学生が目指す専門職の立場から考えを深めていくプログラムです。

### ミッションプログラムを構成する3つの教育

#### ●『人と家族』

ヒトは家族の中で人になります。

家族というシステムの制度、共同体、愛情関係、発達などを学ぶことで、プロの職業人として必要な人と家族との関係についての知識を得ます。

#### ●『人と社会』

ヒトは社会の中で人間になります。

社会的諸制度、法、地域、職場を学ぶことで、プロの職業人として必要な人と社会とのかわりについての知識を得ます。

#### ●『個として』

ヒトは一人で生まれて一人で死んでいきます。すべての人がかけがえのない一人です。

一人であるからこそ、考え、愛し、成長するのです。個としての成長を支援する知識を得ることで、プロの職業人としての人間理解を深めます。

## 3. プロフェッショナル（職業的な智慧）プログラム

「その仕事に必要な知識、技術、資格及びそれを現場で応用し役立てる力を育てるプログラム」  
プロに必要な専門的な知識や技術、資格を身につけるだけではなく、現場の体験から自分なりに修得した、現場で応用し役立てる力（智慧）を育てるプログラムです。

### プロフェッショナル教育を構成する3つの教育

#### ●『専門知識・技能』

プロの職業人になるために必要な専門的知識、技術を体系的に整理して学びます。講義と演習をわかりやすく関連して学習します。

#### ●『現場力教育』

理論でカバーしきれない現場特有の混沌や矛盾にたじろがず、現場で体験したことの意味をよく考えることで、現場の現実と理論や理念を結び付けることができる力を育てます。就職してすぐに活用できるような、生きた実践力を育てることができる実習を行います。

#### ●『国家試験対策』

国家試験合格にむけて、出題傾向分析、弱点補強など、徹底した受験対策授業をおこない全員の合格を目指します。